

庭月観音

謹賀新年

てん くう あか

ゆう

天空灯りの夕べ

～参道・観音堂をライトアップ～

(拝観無料)

庭月観音観音堂にて開催

お観音さまの導きの光

12月31日午後7時～1月1日午前2時

1月1日～1月2日 午後7時～午後8時30分

主催：庭月観音法灯護持会

問合先：0233-55-2343

※写真はイメージです

日本人の心 大晦日とお正月

日本人にとって、大晦日とお正月は古来より大切な伝統行事です。

年末になると、各家では大掃除をするとともに、門松やしめ飾り、鏡餅を家に備えつけて、新年を迎える準備をします。そして、大晦日になると、お寺では除夜の鐘を鳴らします。

これらのすべては、私たちが清らかな心身で年を越し、年神様(ご先祖様)を家に迎えるためなのです。

年神様(ご先祖様)とは、初日の出とともに各家々を訪れる神様のことです。豊作・福德の神であり、私たちのご先祖様であるともいわれています。

古代の日本では、年の境目にあの世から神様が訪れ、人々に幸福をもたらすと信仰されていました。

その後、水田稲作が始まるとともに、稲の成長が庶民にとって最も重要なこととなりました。人々は、年の境目に訪れる神様が、稲を健やかに育て豊作をもたらしてくれると考えるようになりました。

そして日本人は、その幸福をもたらす神様は、私たちをいつも見守ってくれているご先祖様と同じ存在だと考えるようになっていくのです。

こうして、年の境目になると家に年神様(ご先祖様)をお迎えし、一年の幸福と豊作をお願いする伝統行事「お正月」が形づくられていきました。

除夜の鐘は、私たちの^{ほんのう}煩悩を打ち消すと言われています。一年間の^{けがれ}穢れを^{きよ}浄め、清らかな心身で年神様をお迎えすることができます。

門松やしめ飾りは、年神様に家の場所を伝えるための目印です。しめ飾りは、神社のしめ縄と同じであり、神様を迎える神聖な場所であることを示します。そして、年神様の食べ物として鏡餅を供えるのです。

お正月という日本の伝統を大切にして、年神様に一年の幸福をお祈りいたしましょう。 合掌